

文の主要要素
(文の中での語句の役割)

この二つを区別しよう。

品詞
(単語の種類)

Vの形に関わる: 時制・助動詞・仮定法・受動態

文型の構造を壊す「特殊構文」
倒置、挿入、強調、省略

S V O C M

名

動

形

副

限定用法(M)
1語なら名詞の前
2語以上なら後ろから修飾する

叙述 用法

S: 主語。動作する人・物・事
V: 述語動詞。文の中心になる動作。
O: 目的語。動作される人・物・事

C: 補語、主語や目的語を「補い」、それが、「どういふものか」、「どういふ状態か」を説明する。

M: 修飾語、他の部分を「飾るもの」、なくても文が成立するため、文の主要要素ではないと言われる。

副: 副詞。形容詞が名詞を修飾するのに対し、名詞以外、主に動詞を「修飾」する語をすべて副詞と呼ぶ。

句
(2語以上の単語のまとまりが、一つの「品詞」として働くもの)

主に「準動詞」。
色が同じものはしっかり「識別」しよう。

・to V ... (名詞用法)
・Ving... (動名詞)

・疑問詞 + to V
[where to V, when to V, who(m) to V, what to V, how to V, which to V]

句動詞 (put on, take off など2語以上で一つの動詞と見なせるもの ← 「句」の定義に合う)

・to V ... (形容詞用法)

・Ving... (現在分詞: 能動的)
・V p.p.... (過去分詞: 受動的)

・前置詞 + 名詞 (前置詞の目的語)

・to V ... (副詞用法)

・Ving... (分詞構文)
・V p.p.... (分詞構文)

・前置詞 + 名詞 (前置詞の目的語)

準動詞: 「to不定詞」「動名詞」「分詞(構文)」は全て「準動詞」と呼ばれる。「準動詞」とは、「動詞」の形を少し変えて、「動詞」以外の品詞の働きをさせたもので、「動詞」に「準ずる」ものであるため。

節
(句の定義を満たすもののうち、中にSVを含んでいるもの)

主に「接続詞・関係詞」。
色が付いているものはちゃんと「識別」しよう。

・接続詞 + SV
[that SV, whether SV, if SV]

・間接疑問
[what (S) V, who (S) V, which (S) V, when SV, where SV, why SV 他]

・関係代名詞 what [what (S) V]

・複合関係代名詞
[whatever (S) V, who(m)ever (S) V, whichever (S) V]

・関係代名詞 + (S)V (名詞欠如文)
[which, who(m), that, whose, as, but, than...]

・関係副詞 + SV (完全文 = 副詞欠如文)
[when, where, how, why]

↓ 普通は名詞節と扱われるが... 名詞を修飾しているように見えるため、ここでは形容詞として扱う、

・同格の接続詞 that + SV (完全文)
[the idea that, the belief that, the fact that 他]

・接続詞 + SV
[because SV, when SV, if SV, whether SV, so that, so...that 他、多数]

・複合関係詞代名詞・副詞
[whatever (S) V, who(m)ever (S) V, whichever (S) V, wherever SV, whenever SV, however SV]

先行詞の省略

英文法の地図 V.5